

情報通信審議会 情報通信技術分科会  
新世代モバイル通信システム委員会（第11回）

－ 議事概要 －

1 日時

平成30年12月3日（月）17:00～18:00

2 場所

中央合同庁舎第2号館 総務省8階 第1特別会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員等

森川 博之（主査）、三瓶 政一（主査代理）、岩浪 剛太、内田 信行、内田 義昭、  
大岸 裕子、大谷 和子、田村 穂積、福井 晶喜、藤本 正代、藤原 洋、  
町田 奈穂、松井 房樹

（2）オブザーバ

浅野 弘明（パナソニック株式会社）、市川 武男（日本電信電話株式会社）、  
上村 治（ソフトバンク株式会社）、清水 俊光（日本電気株式会社）

（3）総務省

布施田 英生（電波政策課長）、豊嶋 基暢（基幹・衛星移動通信課長）、  
藤田 和重（電気通信技術システム課長）、坂中 靖志（技術政策課長）、  
荻原 直彦（移動通信課長）、片桐 広逸（移動通信課企画官）、  
中川 拓哉（移動通信課課長補佐）、村井 遊（移動通信課課長補佐）

4 議題

（1）5G実現に向けた進捗状況について

事務局より、5G実現に向けた進捗状況について説明がなされた。また、以下の意見  
交換があった。

三瓶主査代理：P.10 の中で2年以内に全都道府県でサービスを開始と記載があるが、実  
現の見込み等はあるのか。

事務局：事業者からの開設計画が提出されなければ分からない点もあるが、10月に実施  
した5G利用ニーズの調査や公開ヒアリングの中で、ドコモ、KDDI、ソフト

バンク、楽天の4社から示された全国展開に向けた意見や発言をふまえると、実現できるものと見込んでいる。

三瓶主査代理：全国展開（2年以内に全都道府県でサービス開始）については、各都道府県の中で1つのメッシュでもカバーすることが出来れば良いということか。

事務局：そのとおりである。

三瓶主査代理：アイデアコンテストで提出されたアイデアの内容については、既に把握されているのか。

事務局：現在、提出されたアイデアについて、順次確認中であり、各地方局含めて審査を行う体制については整っている。来年度の総合実証に繋がるようなアイデアが出てくることを期待している。

## （2）今後の検討課題について

事務局より、今後の検討課題について説明がなされた。また、以下の意見交換があった。

三瓶主査代理：ローカル5Gの検討項目の中で、地域限定の「地域」とはどのようなものを想定されているのか。

事務局：工事現場での建機の遠隔操作や、人口密集が見込まれるスタジアムでの利用など、閉空間ではないエリアが一例として想定されるが、この点については、作業班の中で、様々な意見を頂けると期待している。

三瓶主査代理：これまでの総合実証の中で想定してきた内容について、制度化を行う段階に入ってきたものと認識している。今後、ユースケースを含めて、作業班で議論を行いたいと考えている。

事務局：既存のキャリアが運用するケースもあると思うが、ユースケースによっては、既存のキャリアでは対応しづらいものもあり、そういったニーズに対応する選択肢を広げるための検討でもあると考えている。

藤原専門委員：既存のキャリアに周波数割当てされた場合、全国展開の義務を負うこととなるが、今回議論を行うローカル5Gについては、特定のエリアのみでもサービスを提供できるため、従来とは異なる新たなチャンスが創出されるものと理解している。

事務局：ご発言のとおりであると考えている。検討項目の中にある「地域」とは、既存システムと共用するため利用可能な範囲を地理的に分ける意味での「地域」と、個々のシステムにどの程度の範囲までエリアカバーを許容するかという意味での「地域」の2種類があると考えている。5Gを活用して地域に役立つサービスが導入されやすい環境を整えることが重要であり、そのためには、それぞれのシステムがどの程度の範囲をカバーすることが適当かという点について議論頂きたいと考えている。

三瓶主査代理：ローカル5Gについては、既存のキャリアが展開するサービスとは異なり、

各地域における草の根的なものであり、こういったものも含めて、5Gで世の中を引っ張っていくと考えている。

大岸専門委員：新しい作業班に関して、様々な可能性が議論される場として期待している。たとえば、従来のタワー業者のような限定の環境下で事業者さんにインフラを提供するような考え方もある。従来の自営網のような考え方で、弊社の工場のような場所のファクトリーオートメーションでの映像の伝送を想定した考え方もある。またスタジアムなどの映像のライブ中継現場で一時的に設置されるような基地局の貸し出しによりカメラからケーブルを使わずに高画質な映像を伝送する可能性もあると思いい大変期待している。また28GHzなどの帯域で、人の多い混雑した施設の中の特定の閉じた空間、ビル、駅、商業施設などに限定した制度を設けることによって、全国区の事業者さんのユーザーさんが利用できるようにする地域限定事業者の免許の在り方も考えられると思っている。このように様々な場面の多様性を考えた新しい仕組みについて議論していただくことを期待している。

大谷専門委員：ローカル5Gの候補周波数帯として、4.6-4.8GHzと28GHz帯を挙げているが、この2つの周波数帯の伝搬特性の違いなどによる検討項目はあるのか。また、ローカル5Gの検討を行うにあたり、ICTインフラ地域展開戦略検討会の8つの課題を意識したユースケース毎での検討を行うのか、全く異なる自由な発想を集めて検討を行うのか、進め方等について御紹介頂きたい。

事務局：周波数特性の差異はあるものの、共用検討先からの課題項目としては、いずれの周波数帯についても共通したものがほとんどであるため、結果的に同様の検討を行う必要があると考えている。また、来年度の5G総合実証については、昨年度までに実施した内容だけではなく、アイデアコンテストの内容を取り入れながら幅広く実施していく予定である。

大谷専門委員：総合実証等に出てきたアイデアとリンクをとりながら、今後のローカル5Gの検討を進めていくのかについて御教授頂きたい。

事務局：総合実証での内容については、基本的なユースケースであると考えている。また、アイデアコンテストで提出された様々なユースケースについても、今後導入する際に問題が無いように検討を行っていく必要があるため、ローカル5Gの審議に活かして頂きたいと考えている。

藤本専門委員：ローカル5Gを進めるにあたり、地域のビジネスパートナーの存在が非常に重要であると考えているが、実現に向けた見通し等があれば御紹介頂きたい。

事務局：地場産業に対して知恵を提供できる大学や高専などの学の分野や、資金面での協力が可能な地銀などが想定される。

森川主査：ローカル5G作業班の主任については、従来の作業班から引き続き三瓶主査代理をお願いしたいと考えている。本検討では、これまでの延長線上では上手くいかない点も多くあると想定しており、柔軟な考え方で検討していく必要がある。

(3) その他

事務局より、次回日程等については別途連絡する旨案内があった。

以上